

松本地域活性化サロン テーマ「松本市の産業と今後を考える」

◇ 平成30年3月13日開催

◇ ゲストスピーカー 小澤 吉則 一般財団法人長野経済研究所 調査部長

「松本市の産業と今後を考える」発表概要

1. 最近の経済情勢と見通し

- 2012年12月から始まった景気回復は、57か月間の「いざなぎ景気」を抜き、18年3月で64ヶ月となっており、12月には戦後最長景気に並ぶ見通し。世界経済の回復や中国の半導体、スマホを始めとしたIT関連が大変好調なことなどが要因で、情報通信機械や電子部品・デバイス等のウエイトが高い長野県も、関連製造業の受注が好調で、経済は回復基調にある。先行きは、海外情勢等のリスクはあるものの、20年頃までは回復基調が続く見通し。
- しかしながら、長期的な経済成長の見通しをみると、労働力人口の減少が進み、内閣府の試算によると20年代には、実質GDP成長率は1.2%程度まで低下する見通し。松本市の人口も40年にはピーク時の85%、高齢化率は34.6%になると予測される¹。25年には団塊世代が75歳となり介護離職者も増加するおそれがある。成長のためには、「地方創生」や「働き方改革」による生産性向上を進めて、労働力の減少をカバーしていくことが重要。

2. 松本市の産業構造と地方創生戦略

- 商業の都市というイメージが強い松本市の産業構造は、実は多くの業種がバランスよく存在しており、付加価値額で見ると、1位は利幅が大きい製造業で、2位は卸売・小売業、3位は医療福祉²。3位に医療福祉がくることは珍しく、「健康寿命延伸都市・松本」を謳っているとおり松本市の特徴のひとつと言える。また観光は、インバウンドは長野県内で100万人を超えているが³、市町村別にみると、松本城の人氣も影響して軽井沢町や白馬村を押さえて松本市が県内1位⁴。総じて、松本市は、製造業、卸売業・小売業、医療福祉、宿泊に強く、ブランド力も全国的にみても高いことが強み。
- 地域活性化にはその地域の強みを活かしていくことが大変重要。松本市の地方創生総合戦略や松本市総合計画(第10次基本計画)でも、「健康・医療産業の創出・育成」、「高次広範の観光戦略」、「松本製品のブランド化」や、「コンパクトシティの実現」(歩いて暮らせるまちづくり)等を掲げているが、強みをより磨き上げて、掛け合わせると優れたものが倍増していく。
- 松本市は「松本ヘルス・ラボ」という市民の健康づくりと産業の創出を同時に実現させようという全国的にもあまりない取組みや、健康経営(社員の健康づくりを経営課題と捉えて、社員の健康増進に努めるための取組み)の推進を企業・経営者に積極的に働きかけるなど、「健康」に特に注力しており、東京の二番煎じではない松本市特有の強みを磨き上げている。

3. 「働き方改革」はモチベーション改革

- 「働き方改革」は単に早く帰る改革ではなく、頑張って働きたくなる社員のモチベーション改革だと思っている。
- 社員が頑張って働きたくなる会社は、社員を一番大切にしている会社。社員を一番に大切にすれば、社員もそれに応えようと一生懸命働く。社員が一生懸命働けばその会社のファンが出来て、不況でも好況でも商品を顧客に選んでもらえるようになり、業績もぶれない。これは「人を大切にす経営学会」の坂本光司会長の経営学である。社員を大事にしておかないと、これからの20年以降の大波の時代を生きていくのは難しいだろう。
- 当社の人事労務コンサルタントから、人手不足に悩んでいる中小企業のなかに、いまだに人を人財と見れずに、社長だけが威張っている企業があるという話を聞いたことがある。そういう会社は、採用も出来ない上に、離職が増えており、結果として人手不足になるという負のスパイラルに陥っているようだ。今重要なことは、社員を大切にす離職をなくし、社員の良いところを見つけて、適材適所でその能力が発揮されるように努めることだと思う。

(資料) 1.松本市「超少子高齢型人口減少社会における松本市の人口推計」 2.総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」
3.観光庁「宿泊旅行統計」 4.長野県「平成28年外国人延泊者数調査結果」